

2026 年 7 月 13 日

Progmatt, Inc.

Avalanche

Progmatt 基盤の Avalanche 連携完了について
－Progmatt 上のデジタル証券案件（4,520 億超）の全移行プロセスが成功裡に完了－



Progmatt基盤のAvalanche連携完了について
－Progmatt上のデジタル証券案件(4,520億超)の全移行プロセスが成功裡に完了－

Progmatt, Inc.（代表取締役：齊藤 達哉、以下 Progmatt 社）は、デジタル証券（Security Token、以下 ST）の発行・管理基盤「Progmatt」について、アジア圏で初めて対応した分散型台帳「Corda5」^{*1}から、「Avalanche L1」^{*2}への移行が完了しました。本対応により、国内トップシェア^{*3}のプラットフォームとして管理している全 ST 案件（本日時点で 4,520 億円超^{*4}）が EVM 互換^{*5}となり、金融機関の利用要件とパブリックチェーン環境でのコンポーザビリティ^{*6}を両立することが可能になりました。移行前と比較して、権利移転の処理速度を 3 倍～5 倍^{*7}ほど高速化することも実現し、市場規模・投資家数の急拡大への備えも施しています。

2. Progmatt 基盤刷新対応「Project Keystone」の概要

(1) 将来像を見据えたアーキテクチャの高度化

- ① ブロックチェーン連携レイヤー（mediator）の導入による台帳実装の抽象化、業務機能とブロックチェーンの分離により、特定のブロックチェーンに依存しないアーキテクチャへの変更
- ② ステープルコインやトークン化預金等との連携を見据えた、オンチェーン/オフチェーン配置設計の最適化

(2) セキュリティの高度化

- ① 鍵管理に係るリスク排除を目的とした、クラウドネイティブなセキュリティ基盤への刷新

(3) 軽量化・高速化

- ① 利用企業毎の Corda ノード追加が不要となり、新規利用企業向けの環境構築に係るリードタイム・コストを低減
- ② アーキテクチャの再設計等により、権利移転の処理速度を高速化（3 倍～5 倍程度）。

Avalanche L1 上のトランザクションファイナリティは 2 秒未満となり、ほぼ即時決済を実現

(4) Avalanche 連携

- ① Java ベースの Corda スマートコントラクトから、Solidity ベースの EVM スマートコントラクトへの切替を、既存機能の動作・仕様や非機能要件を変更せず、発行済みの既存案件や既存利用企業への影響を最小限に留める形で実現
- ② Ava Labs 社の提供する「AvaCloud」の SOC1&2 TypeII 認証の追加取得による、金融事業者要求水準の担保
- ③ Progmatic 社・Ava Labs 社間の連携による、休日夜間を含めた障害対応態勢の確立

3. 関連組織の概要・コメント

(1) Progmatic, Inc.（株式会社 Progmatic）

代 表 者： 代表取締役 Founder&CEO 齊藤 達哉

本 社： 東京都千代田区丸の内 1-6-5 丸の内北口ビルディング（WeWork 内）

設 立 日： 2023 年 10 月 2 日

U R L： <https://progmatic.co.jp/>

コ メ ン ト： 今般、「Project Keystone」として進めてきた大規模な基盤刷新を遅延なく完了し、Progmatic 上の全 ST 案件を新たな環境へ移行できたことを大変嬉しく思います。今回の Avalanche 連携完了は、日本の ST 市場がグローバルな RWA エコシステムと本格的につながる象徴的な成果であると捉えています。「mediator」導入等のアーキテクチャ高度化により、近日中に見込まれている、対象アセットの特性・投資家の嗜好の違いによる複数チェーン選択への柔軟な対応や、異なるチェーンを跨いだ同時決済等、機関投資家等の本格的な参入に伴う業務要求の高度化に対し、プロアクティブに対応していきます。

(2) Ava Labs, Inc.

代 表 者： CEO Emin Gün Sirer

本 社： 1177 Avenue of the Americas, 5th Floor, Suite 50922, New York, NY 10036, United States

設 立 日： 2018 年

U R L： <https://www.avalabs.org/>

コ メ ン ト： 4,520 億円を超える規制対象の有価証券を、発行体や利用企業への影響がなく移行し切れることは、機関投資家向けインフラが越えるべき水準であり、私たちが最も誇りとする実証成果です。AvaCloud は、本移行を支えるコンプライアンスに準拠した Avalanche L1 と 24 時間 365 日の運用体制を、金融機関が求める SOC 1 および SOC 2 Type II 保証に裏付けられた形で提供しました。

AvaCloud CEO Nick Mussallem

以 上

- *1 プレスリリース「デジタルアセット市場における“ナショナルインフラ”実現に向けた、「Progmata SaaS」及び「導入支援サービス」の提供開始について」（2024 年 11 月 1 日）
https://progmata.co.jp/wp-content/uploads/2024/11/press241101_01.pdf
- *2 **Avalanche** エコシステム内でアプリケーション固有の独立したネットワークを構築できるようにしたもの。各 L1 は独立したネットワークとして動作し、独自のルールセット、トークンエコノミクス、技術仕様の定義が可能。このような独立性により、L1 は特定のユースケースに合わせて環境をカスタマイズできる
<https://support.avax.network/en/articles/4064861-what-is-an-avalanche-l1>
- *3 公開済み ST 案件取扱件数 45 件（全 89 案件）、ST 取扱金額 2,313 億円超（全 3,643 億円超）、左記対象案件における ST プラットフォームと販売者の組み合わせ数 10 社（Progmata 社調べ）
- *4 ST 発行案件に係る有価証券届出書上の総資産額、及び ST 債に係る公開情報上の発行額、償還済み案件は償還時点で金額 0 円として算出（Progmata 社調べ・最新実績は月次レポートで公表中）
[【Progmata】 Monthly ST Market Report（最新月）](#)
- *5 **Ethereum Virtual Machine** は、Ethereum 上でスマートコントラクトを実行するために特化した環境を指す。EVM との互換性を有することで、Ethereum と同様の開発ツールやライブラリが利用可能となり、開発効率が向上すると共に、各種スマートコントラクトとの統合も容易になるため、Ethereum のエコシステム全体と連携できる
- *6 ブロックチェーン上の異なるプロトコルやアプリケーションをモジュール的かつ相互運用可能な形で連携させ、新たなアプリケーションやサービスを構築できる特性を指す
- *7 Progmata 社内試算・検証ベース